

平成 28 年度下北流域森林林業活性化センター研修会で発表しました

平成 29 年 2 月 22 日にむつ市で開催された「平成 28 年度下北流域森林林業活性化センター研修会」に副所長が「国有林における青森ヒバの復元に向けた取組」と題して発表しました。

本研修会は、下北流域森林林業活性化センターが毎年実施しているものですが、今年は青森県の県木で郷土樹種の「青森ひばの復元」をテーマにした発表会が開催されました。

発表は、青森県下北地域県民局の「青森ヒバ復活に



向けた民有林の取組」に始まり、東北森林管理局青森事務所の「国有林における青森ヒバ復元に向けた取組」、最後に青森県産業技術センター林業研究所の「ヒバの研究成果について」と「林業研究所の取組について」発表されました。

青森県内の青森ヒバ蓄積は 90 %以上が国有林で、そのほとんどが天然林で人工林はまだまだ少ない状況です。一方、民有林はほぼ人工林であり、スギなどの下層に樹下植栽している複層林が多くなっており、青森県と林業研究所は、ヒバ人工林内で漏脂病を発症した立木を製材した場合の影響や漏脂病の発生要因等について発表されていました。

青森事務所の発表内容は、平成 23 年度から始めた青森ヒバ天然林の間伐や平成 28 年度東北森林管理局の重点取組事項の一つである「青森ヒバ林復元推進エリアの設置」を中心に発表しました。

最後に、民有林における青森ヒバ人工林の漏脂病の影響や対策等を参考にしながら、国有林の青森ヒバ復元に向けた取組に活かしていきたいと思いません。